

生産者が給食にミニトマトを贈呈 地元の食材をおいしく食べてほしい

5/14 松橋町内の学校給食で地元の野菜を食べてもらおうと、JA熊本うきトマト専門部会から、3ケース28箱分のミニトマトが市へ贈られ、松橋小学校で贈呈式が行われました。同部会の藤田靖司副会長は「宇城市産のミニトマトは、ほとんどが県外に出荷されている。この機会に地域の子もたちに、陽の光を浴びて強くなったトマトの甘みを味わってほしい」と述べました。

ミニトマトを受け取った松橋小6年の徳永悠真さんは「いろんな人が関わって作られた地元のトマトをおいしく食べたい」と話していました。



たくさんのミニトマトを受け取ってにっこり

アグリパーク豊野出荷協議会が図書券を贈呈 奉仕の心 「希望のざる」で地域貢献



図書券を贈る高野博出荷協議会長(左)

4/23 アグリパーク豊野出荷協議会が、豊野小・中学校と海東小学校に図書券を贈呈しました。これは同協議会がアグリパーク豊野内に、規格外の農産物などを販売する「希望のざる」を設置し、その収益分の品物を学校などに毎年プレゼントしているもの。地域への奉仕の気持ちから始め、今年で5年目。年々、生産者や購入者の意識も高まり、今年は2校に5万円分ずつ贈られました。図書券を受け取った豊野小学校の小原ひとみ教頭は「奉仕の精神は道德教育につながる。児童らにもしっかり伝え、大事に使いたい」と語りました。

地域おこし協力隊員を紹介します LOCAL VITALIZATION COOPERATORS

地域おこし協力隊員 …自治体の委嘱を受けて、地域ブランドや地場産品の開発・PRなど地域おこしの支援や、住民の生活支援といった地域協力活動を行う。

 <p>西口 昂輝さん(22)</p>	 <p>小濱 光時さん(24)</p>	 <p>勝川 清史さん(65)</p>
<p>空家対策</p> <p>4月1日着任 4月15日着任</p>		<p>観光物産</p> <p>5月1日着任</p>

空き家が流通するシステムを作り、 空き家の活用と移住定住を増やしたい

西口さんと小濱さんは、熊本県立大学で、宇城市空家等対策協議会の会長でもある佐藤哲准教授の研究室に所属していることから、宇城市の空き家対策に取り組んでいます。不知火町松合に移住。

今年から県立大学大学院で研究をしています。松合では、土蔵白壁の空き家を改修しながら2人で住み始めました。益城町出身で、熊本地震のときに被災者に提供する家具を工具で組み立てた経験が今、役に立っています。2年間の任期中に、将来の目標を見つけないと思っています。

熊本市出身で、3月に県立大学大学院を修了しました。建築士の資格を生かして、空き家問題を解決するシステムやツールの開発に関わりたいです。移住した松合は、人と人の距離感が近く、地域に入りやすいと感じています。車とバイク、登山やものづくりが好きです。

宇城市の観光物産での 集客力を上げていきたい

岐阜県大垣市上石津町、福島県耶麻郡北塩原村で活動し、宇城市が3カ所目。

これまでの経験を生かして、宇城市の観光客数や認知度を上げる活動を行い、少しでも宇城市に貢献していきたいと思っています。

健康管理のために、ウォーキングやジョギングをしているので、これからマラソン大会にチャレンジしたいと考えています。

平成から令和をまたいで歩こう 御領天満宮で2時代足かけウォーキング

4/30 不知火町の御領天満宮で、「平成」から「令和」への時代の変り目をまたぐウォーキング大会が開かれ、約70人が参加しました。「時代をまたいで歩き続けよう」と御領本区改元記念企画実行委員会が企画したもの。午後11時50分にスタートし、午前0時を迎えた瞬間には、歓声や拍手が湧き起こりました。参加者には名前入りの「完歩証明書」が渡され、帰省中に参加した本庄友紀さん＝熊本市＝は「親子三代で参加できて、いい思い出になった。ゴールデンウィーク中の子どもたちも貴重な体験ができた」と喜んでいました。



世代を越え、時代をまたいでウォーキング

豊田雄二さんに宇城市長善行者表彰 自ら学んで考えられる子どもたちに



野球教室の講師や市長と並ぶ豊田さん(右から3人目)

5/11 松橋町出身の豊田雄二さん(69)＝神奈川県大和市＝に、守田憲史市長から宇城市長善行者表彰の賞状と記念品が贈呈されました。これは、元プロ野球選手を招き開催している市野球教室を、豊田さんが支援してきたことに対し贈られたもの。豊田さんは「表彰はまさかという感じで驚いた。子どもたちには、指導者の話を聞くのはもちろん、教えられた技術について自ら考え、理解する人間に育ってほしい」と語っていました。表彰後には野球教室が開催され、熱心な指導を受ける子どもたちの真剣な姿が見られました。